

「ルネサンス期ヨーロッパにおける魔女表象と社会の変容」

日時・会場

2018年 9月 22日(土) 14:00~17:30
早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階 第七会議室

講演者

黒川正剛(太成学院大学教授)
田島篤史(大阪市立大学都市文化研究センター研究員)
小林繁子(新潟大学准教授)
司会: 高津秀之(東京経済大学准教授)

「魔女」の表象は、学識者の著作の中に、あるいは視覚的芸術作品の中に、あるいは雑多な印刷物の中に、人々の噂話の中に再生産され続けた。それらはイマジネールにとどまらず魔女裁判という実践に結晶化し、同時代の人々に「魔女」表象をさらに強く印象付けることになった。

本シンポジウムでは3名の報告者がそれぞれの関心から表象と実践との間の交渉を論じる。黒川報告は絵画や木版画から魔女イメージを析出し、その受容と変形を「身体と感情」をキーワードに分析する。田島報告は都市における魔女裁判の中に見られる学識者による悪魔学書の影響とそこに見出される近代性の萌芽を論じる。小林報告は「魔女」だという中傷に対する名誉棄損訴訟をとりあげ、近世に生じた司法を利用した和解への戦略をさぐる。



- 14:00 報告1: 黒川正剛
「変容する魔女表象—身体と感情をめぐる」
- 14:45 報告2: 田島篤史
「帝国都市ニルンベルクの魔女裁判にみる悪魔学的要素と萌芽的近代性」
- 15:30 休憩
- 15:45 報告3: 小林繁子
「名誉をめぐる攻防—「魔女」の名誉棄損訴訟と司法利用の戦略」
- 16:30 質疑と討論
- 17:30 閉会

主催・問合せ

共催 早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所 (第9回シンポジウム)